

血液のしくみ

Hematologic system

ユニット責任者：生理学 准教授 長谷 都

ブロック名		期間	ブロック責任者
第1ブロック	血液	7月23日～7月26日	長谷 都

1. ユニット概要・学習内容

血液は全身をめぐる、生命の維持に必須の役割を演じている。従って、その構成要素である血液を産生する組織の構造を理解し、血液の機能を知ることは医学生として必要なことである。

2. 到達目標

- 1) 血液やリンパ液を産生、運搬する構造を説明できる。
- 2) 血液を構成する各要素の機能を説明できる。
- 3) 血液凝固、止血の機序を説明できる。
- 4) 血液型の判定原理を説明できる。

3. 学習上の注意点

高校生物で血液の一部の学習が行われる。従って、生物に関する高校生レベルの知識はあるものと考えて授業を行う。高校生物履修者はその範囲を復習してから、生物履修でない者は事前学習で指定されている内容をもとに指定参考書の該当項目を通し理解してから、講義にのぞむこと。

4. 教科書・参考書

教科書

『標準組織学総論』（医学書院）

（書評）形態実習 III の指定教科書。2015年に最新の第5版となり、組織写真や模式図がアップデートされた。

参考書

『入門組織学』（南江堂）

（書評）手書きの組織像が分かりやすい。標準組織学は難しすぎるという人におすすめ。この本で組織学の概要を理解し、足りない部分は標準組織学や他の参考書で補うとよい。

『機能を中心とした図説組織学』（医学書院）

（書評）組織学の総論と各論がほどよい分量で一冊にまとまっている。良質な光頭・電頭写真がふんだんに使われている。

『標準生理学』（医学書院）

（書評）以前はマニアックな記述が多く、学生には不評であったが第8版以降大変読みやすく、イラストも一般受けする様になった。

『オックスフォード生理学 第4版』（丸善）

（書評）各単元がコンパクトにまとまっている。單元ごとに、最後に理解して欲しい内容の要約および設問があり、自主学習に向いている。医学生として標準的知識量。

『カラー図解 人体の正常構造と機能』（日本医事新報社）

（書評）解剖学と生理学の両者の範囲が記述されている。生物を履修していない学生でも、生体の機能をイメージしやすいイラストが揃っている。生理機能の記述は、そこまで詳しくない。

『ハーパー生化学 第29版』（丸善）

（書評）「血漿タンパク質と免疫グロブリン」、「止血と血栓症」、「赤血球および白血球」の単元は、血液の機能について必要な知識が記載されている。やや専門的で詳述されている傾向があるため、要点を各講義で確認されたい。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	90 (%)	
授業態度	-	10 (%)	

※当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
生理学	准教授	長谷 都	12:30~13:30	医学部4階・生理学教室	mfuruta
解剖学	准教授	廣井 準也	随時（要メール予約）	医学部6階・解剖学教室	j-hiroi
疾患BM・標的分子制御学	教授	鈴木真奈絵	水曜日、17-18時	医学部5階・生化学教室	内線 3521
生理学	講師	小倉 裕司	月曜日 11:00~13:00	医学部4階生理学	yuji_ogura

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略